



6 消安第104号  
令和6年4月3日

各関係団体の長（別記参照） 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

米国の乳牛における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1 亜型）  
への感染事例について

日頃より、家畜衛生の推進に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。  
今般、別添のとおり都道府県家畜衛生主務部長宛て通知しましたので、御了知の上、貴職におかれましては、会員各位に周知いただきますよう御協力をお願いします。

(別記)

一般社団法人 Jミルク会長  
一般社団法人 全国酪農協会会長  
一般社団法人 中央酪農会議会長  
全国酪農業協同組合連合会代表理事会長  
一般社団法人 日本乳業協会会長  
全国農協乳業協会会長  
一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会会長  
全国乳業協同組合連合会会長  
一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会会長  
日本ジャージー登録協会会長  
一般社団法人 日本短角種登録協会会長  
一般社団法人 日本あか牛登録協会会長  
公益社団法人 全国和牛登録協会会長理事  
全国肉牛事業協同組合理事長  
一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会会長  
一般社団法人 日本家畜人工授精師協会会長  
一般社団法人 日本草地畜産種子協会会長  
一般社団法人 家畜改良事業団理事長  
公益社団法人 日本装削蹄協会会長  
一般社団法人 全国畜産配合飼料価格安定基金理事長  
一般社団法人 全日本配合飼料価格・畜産安定基金理事長  
一般社団法人 日本科学飼料協会理事長  
公益社団法人 配合飼料供給安定機構理事長  
飼料輸出入協議会理事長  
一般社団法人 日本家畜商協会会長  
一般社団法人 日本畜産副産物協会会長  
公益社団法人 全国農業共済協会会長  
全国開拓農業協同組合連合会代表理事会長  
全国畜産農業協同組合連合会代表理事会長  
公益社団法人 中央畜産会会長  
全国農業協同組合中央会会長  
全国農業協同組合連合会代表理事理事長  
一般社団法人 全国動物薬品器材協会理事長  
一般社団法人 日本家畜輸出入協議会理事長  
公益社団法人 日本獣医師会会長  
公益社団法人 日本動物用医薬品協会理事長  
一般財団法人 畜産環境整備機構理事長  
協同組合日本飼料工業会会長  
公益社団法人 畜産技術協会会長  
一般社団法人 全国畜産経営安定基金協会会長  
全国精麦工業協同組合連合会会長  
全国飼料卸協同組合理事長  
全国飼料輸入協議会会長  
日本ハム・ソーセイジ工業協同組合理事長  
公益社団法人 日本実験動物協会会長  
日本実験動物協同組合長  
公益社団法人 日本食肉市場卸売協会会長  
公益財団法人 畜産近代化リース協会 事務局長  
全国肉用牛経営者会議 事務局長

写

6 消安第104号  
令和6年4月3日

都道府県家畜衛生主務部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

米国の乳牛における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1 亜型）  
への感染事例について

高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という。）については、我が国を含む世界各地で野鳥から同病のH5 亜型ウイルスが検出され、家きん農場における発生が確認されているほか、ほ乳類への感染事例も散発的に報告されています。

近時、米国においては、乳量の減少、食欲低下等がみられた乳牛における HPAI ウイルス（H5N1 亜型）の感染が複数（4月2日（現地）までに5州12農場）確認され、その他に検査中の事案もあると報告されています。これらの事例については、渡り鳥が感染源とみられていますが、ミシガン州の牛群の事例では牛から牛への感染の可能性が排除できないとされているなど、引き続き、米国当局による調査が続いています。また、4月1日（現地）、HPAI ウイルス（H5N1 亜型）への感染が推定される乳牛と接触のあった人の同ウイルス感染事例（結膜炎症状を示した後に回復傾向）も報告されています。米国当局によれば、現在のところ人を含むほ乳類への感染性を高めるウイルスの遺伝子変異等は確認されておらず、感染動物と直接接触する等した人が感染する可能性はあるものの、一般市民の健康リスクは依然として低いとされています。

我が国においては、牛への HPAI ウイルス感染は報告されていないところですが、今般の事例について、牛の所有者、飼養管理者、獣医師等関係者に周知いただくとともに、特に下記の点について、御指導をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、牛において HPAI ウイルスの感染が疑われる事例が確認された場合には、当課まで御連絡いただくようお願いします。

記

- 1 飼養する牛に乳量の減少、食欲低下等がみられた場合には、群から隔離して管理し、獣医師又は家畜保健衛生所に相談すること。また、獣医師や家畜保健衛

生所においては、疫学的状況や症状の経過等を踏まえ、乳量の減少、食欲低下等の原因が特定されない場合には、HPAIの可能性も考慮した検査を検討すること。

- 2 HPAI等の野鳥からの感染防止を図るため、畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所に野鳥の排せつ物等が混入しないよう必要な措置（飼養衛生管理基準の一の項28）を講ずるなど、飼養衛生管理基準に基づく基本的な衛生管理を徹底すること。

以上

令和6年3月26日  
動物衛生課国際衛生企画班

(仮訳)

**件名：カンザス州とテキサス州の乳牛群におけるHPAI検出について、連邦および州の  
獣医・公衆衛生機関が最新情報を共有**

**Federal and State Veterinary, Public Health Agencies Share Update on  
HPAI Detection in Kansas, Texas Dairy Herds**

**掲載：USDA APHIS**

**日時：2024年3月25日付**

**URL：[https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/news/sa\\_by\\_date/sa-2024/hpai-cattle](https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/news/sa_by_date/sa-2024/hpai-cattle)**

野生の渡り鳥が感染源と考えられ、ウイルス検査と疫学調査が継続されている。  
連邦政府の家畜衛生条件と低温殺菌の両方により、商業用生乳の供給は安全である。

米国農務省（USDA）、米国食品医薬品局（FDA）、米国疾病予防管理センター（CDC）  
及び各州の獣医・公衆衛生当局は、テキサス州、カンザス州及びニューメキシコ州に  
おいて主に高齢の乳牛の間で、泌乳量の減少、食欲低下、その他の症状を引き起こし  
ている疾病の調査を実施している。

3月25日（月）現在、カンザス州の2つの酪農場とテキサス州の1つの酪農場から  
採取された発症牛の未殺菌の生乳サンプル及びテキサス州の別の酪農場から採取さ  
れた口腔咽頭スワブから、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の陽性反応が検出され  
ている。農場の敷地内で死亡した野鳥を発見したという報告もあったため、3月22日  
（金）から週末にかけて追加検査が実施された。テキサス州での調査結果によれば、検  
出された反応は野鳥から持ち込まれたものと思われる。国立獣医サービス研究所によ  
る初期検査では、人への感染性を高めるようなウイルスの変化は見つかっていない。

連邦政府及び州政府は、HPAIの追加検査とウイルスゲノムの塩基配列決定を急いで  
いる。

現段階では、商業用生乳供給の安全性や、この状況が消費者の健康にリスクをもた  
らすという懸念はない。酪農場は健康な家畜から搾乳した生乳のみを食用に供するよ  
う義務付けられており、影響を受けた家畜から搾乳された生乳は、食品供給源に流入  
しないよう流用または廃棄されている。さらに、低温殺菌は牛乳中の細菌やインフル  
エンザなどのウイルスを不活性化することが証明されている。州をまたがる商取引に  
入る生乳には低温殺菌が義務付けられている。

連邦政府機関はまた、州や業界のパートナーと協力し、酪農家や獣医師が牛の病気  
を迅速に報告するよう奨励している。牛群が症状を示している酪農場では、平均して  
各牛群の約10%が影響を受けているようだが、牛の死亡はほとんど報告されていない。  
現在までのところ、発症牛による生乳の損失は限定的で、供給に大きな影響を与える  
ことはなく、生乳やその他の乳製品の価格にも影響はないはずである。

この状況は急速に進展しており、USDAと連邦及び州のパートナーは、情報が入り次第、最新情報を共有していく予定である。バイオセキュリティ対策に関する詳細は[こちら](#)を参照されたい。

令和6年3月30日  
動物衛生課国際衛生企画班

(仮訳)

**件名：USDA、FDA及びCDCが乳牛におけるHPAI検出に関する最新情報を共有**  
**USDA, FDA and CDC Share Update on HPAI Detections in Dairy Cattle**

**掲載：USDA APHIS**

**日時：2024年3月29日付**

**URL：[https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/news/sa\\_by\\_date/sa-2024/hpai-dairy-cattle-update](https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/news/sa_by_date/sa-2024/hpai-dairy-cattle-update)**

米国農務省 (USDA)、米国食品医薬品局 (FDA)、米国疾病対策予防センター (CDC) 及び各州の獣医・公衆衛生当局は、泌乳量の減少、食欲低下、その他の症状を引き起こしている乳牛の病気について調査を続けている。

3月25日 (月)、テキサス州の2つの乳牛群とカンザス州の2つの乳牛群で、これらの症状を示した牛から高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が検出されたことが関係当局によって確認された。

USDAの国立獣医サービス研究所 (NVSL) は、テキサス州から最近牛を導入したミシガン州の1つの乳牛群においてもHPAIの存在を今回確認した。ニューメキシコ州、アイダホ州、テキサス州の牛群についても、推定陽性 (原文: presumptive positive、確定診断の結果を待っている陽性) の検査結果が得られており、これらの検査がNVSLによって陽性と確認された場合、USDAは最新情報を共有する予定である。連邦政府および州政府は、HPAIあるいはその他のHPAIとは関連性のない疾病が症状の根底にあるのかどうかを評価するため、病気の家畜から採取したスワブ及び病気の家畜から採取した未殺菌乳の臨床検体について、ウイルスゲノムの塩基配列決定と共に、追加検査を引き続き実施している。

NVSLはまた、ミシガン州で確認されたウイルス株は、テキサス州とカンザス州で確認された、野鳥によって持ち込まれたと思われる株 (H5N1、Eurasian lineage goose/Guangdong clade 2.3.4.4b) と非常に類似していることを確認した。初期の検査では、ヒトへの感染性を高めるようなウイルスの変化は見つかっていない。感染動物と直接接触したヒトの発症はありうるものの、ヒトへの感染性を高めるようなウイルスの変化が見つかっていないことは、現在のところ、一般市民へのリスクは低いままであることを示している。

ミシガン州の牛群間での症状の広がり、牛間でのHPAI感染を否定できないことを示しており、USDAと関係機関は引き続きこの状況を注意深く監視し、獣医師と生産者に対し、適切なバイオセキュリティを実践し、必要な移動の前には家畜を検査し、家畜の移動を最小限に抑え、病気の牛を牛群から隔離するよう助言している。牛群に症状が現れている酪農場のうち、罹患牛は隔離後に回復しており、関連した死亡率はほとんど報告されていない。

乳製品は市場に出回る前に低温殺菌されるため、商業用牛乳供給の安全性についての懸念や、この状況が消費者の健康にリスクをもたらすという懸念は依然としてない。酪農家は健康な家畜から搾乳された乳のみをヒトの消費用に加工することを義務付けられており、また、影響を受けた家畜から搾乳された生乳は、ヒトの食用に供されないよう、転用または破棄されている。さらに、低温殺菌は乳中の細菌やインフルエンザなどのウイルスを不活性化することが証明されている。低温殺菌は、ヒトが消費するために州をまたいで取引されるすべての乳に義務付けられている。FDAの長年の見解は、無殺菌の生乳には消費者に深刻な健康リスクをもたらす危険な微生物が潜んでいる可能性があるというものであり、FDAはHPAIの検出を踏まえ、生乳の摂取に伴うリスクを消費者に喚起している。

現在までのところ、症状を起こした牛による乳の損失は限定的であり、供給量に大きな影響を与えることはなく、乳やその他乳製品の価格に影響はないはずである。さらに、米国では通常、季節的に生乳生産量が増加するため、春の生乳供給量は十分すぎるほどある。

連邦政府機関はまた、州や業界関係者と協力し、酪農家や獣医師に牛の病気を迅速に報告するよう促している。これにより、新たな症例が発生する可能性を監視し、酪農家や農業従事者、消費者、他の動物への影響やリスクを最小限に抑えることができる。生産者は獣医師と協力し、牛の疾病を迅速に報告し、バイオセキュリティ対策を強化するよう求められている。バイオセキュリティ対策の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



令和6年4月2日  
動物衛生課国際衛生企画班

(仮訳)

**件名：米国で高病原性鳥インフルエンザA (H5N1) ウイルス感染者が報告される  
Highly Pathogenic Avian Influenza A (H5N1) Virus Infection Reported in  
a Person in the U.S.**

**掲載：米国疾病予防管理センター (CDC)**

**日時：2024年4月1日付**

**URL：<https://www.cdc.gov/media/releases/2024/p0401-avian-flu.html>**

CDCの一般市民に対するリスク評価は依然として低い。

米国内でヒトの高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) A (H5N1) ウイルス (以下、「H5N1 鳥インフルエンザ」という) 検査陽性がテキサス州から報告され、CDCにより確定された。このヒト症例はテキサス州でHPAI A(H5N1) ウイルスに感染していると推定される乳牛と接触していた。症例は唯一の症状として目の充血 (結膜炎と一致) を訴え、現在回復中である。患者は隔離するように言われ、インフルエンザ用の抗ウイルス薬で治療を受けている。この感染は、CDCが低いと見なしている米国の一般市民に対する鳥インフルエンザA (H5N1) のヒトへの健康リスク評価に変更を与えるものではない。しかしながら、感染した鳥や他の動物 (家畜を含む) と密接に、あるいは長期間、無防備に接触したり、感染した鳥や他の動物に汚染された環境にいたりする人は感染のリスクが高い。CDCはHPAI A(H5N1) ウイルスの予防、モニタリング、公衆衛生調査に関する 中間勧告 を発表している。

CDCは各州の保健局と協力し、感染した、あるいは感染の可能性のある鳥や動物に接触した可能性のある労働者を監視し、症状が出た人を検査することを継続している。CDCはまた、鳥インフルエンザAウイルス感染が疑われる、あるいは確定された患者に対する監視、検査及び抗ウイルス治療について、臨床医に勧告 している。

米国でインフルエンザA (H5N1) ウイルスの陽性反応が報告されたのは今回が2例目である。以前のヒト感染例は2022年にコロラド州で発生した。A (H5N1) ウイルスを含む鳥インフルエンザAウイルスのヒトへの感染は稀であるが、世界中で散発的に発生している。CDCは、2021年後半に米国の野鳥や家きんでの初めて発生が検出されて以来、H5ウイルスに感染した鳥に暴露されたヒトの発病を監視している。H5N1鳥インフルエンザによるヒトの発病は、軽症 (眼感染、上気道炎など) から重症 (肺炎など) まであり、他国では死に至った例もある。

H5型鳥インフルエンザは、米国および世界的に野鳥の間で流行している。これらのウイルスは 商業用および裏庭の家きんの群れでも発生を引き起こし、哺乳類では散発的な感染を引き起こしている。乳牛におけるHPAIは、2024年3月25日に米国農務省 (USDA) によりテキサス州とカンザス州で初めて報告された。カンザス州の2つの酪農場とテキサス州の1つの酪農場から採取された発病牛の未殺菌乳と、テキサス州の別の酪農

場の牛の咽頭スワブから、遺伝子クレード2.3.4.4bのHPAI A(H5)ウイルスが陽性と判定された。2024年3月29日、米国農務省の国立獣医サービス研究所 (NVSL) は、テキサス州から最近牛を受け入れたミシガン州の乳牛群でHPAIを確認した。米国農務省動植物検疫課 (APHIS) は、酪農家および獣医師向けの疫学的知見やバイオセキュリティガイドランスに関する情報だけでなく、乳牛群での検出に関する最新情報を定期的に提供している。A(H5N1)ウイルスの予備分析では、これらのウイルスが現在FDAに承認されている抗ウイルス薬に耐性を持つような変化は見つかっていないため、これらのウイルスには抗ウイルス薬が有効であると考えられている。関連するクレード2.3.4.4bウイルスに対して開発されたワクチン候補ウイルス (CVV) は、必要であればワクチン製造に利用可能であり、予備的な分析によれば、H5N1インフルエンザウイルスに対して妥当な予防効果を示す可能性がある。季節性インフルエンザワクチンはこれらのウイルスに対する予防効果はない。ウイルス検体の分析は現在進行中である。

### 予防対策

CDCの中間勧告によると、ヒトは、野鳥、家きん、家畜化された鳥類、その他の野生動物または家畜化された動物（牛を含む）を含む、病気または死んだ動物への無防備な接触を避けるべきであり、また動物の死骸、生乳、糞、敷きわら、またはHPAI A(H5N1)ウイルス感染が確認または疑われる鳥類やその他の動物によって汚染された物質への接触を避けるべきである。人々は、HPAI A(H5N1) -ウイルス感染（鳥インフルエンザまたは鳥インフルエンザ）が確認された、または疑われる動物の、未殺菌（生）乳や、チーズなどの生乳から作られた製品など、未調理または加熱不足の食品、または関連する未調理の食品を調理したり食べたりすべきではない。農家、家きん、裏庭の群れ、家畜の所有者、労働者の保護に関する具体的な勧告も入手可能である。

HPAI A(H5N1)ウイルス感染が確認された、あるいは疑われる鳥やその他の動物に暴露された人は、推奨される個人防護具 (PPE) を着用している人を含め、最後に暴露されたことがわかってから10日間は、病気の兆候や症状がないか監視する必要がある。死亡した鳥を発見した場合の対処法を含む、鳥の周囲の防護行動に関する追加情報は、CDCのウェブサイトで入手可能である。

FDAとUSDAによれば、製品は市場に出回る前に低温殺菌されているため、現時点では商業用乳供給の安全性に懸念はないという。酪農場は健康な家畜から搾乳された乳のみをヒトの消費用に加工することを義務付けられており、影響を受けた家畜から搾乳された乳は人間の食品供給網に入らないよう、転用または廃棄されている。さらに、低温殺菌は乳中の細菌やインフルエンザなどのウイルスを不活性化することが証明されている。低温殺菌は、ヒトが消費するために州をまたいで流通するすべての乳に義務付けられている。FDAの長年の見解は、未殺菌の乳には消費者に深刻な健康リスクをもたらす危険な微生物が潜んでいる可能性があるというものであり、FDAはHPAIの検出を踏まえて、乳の摂取に伴うリスクを消費者に喚起している。

CDCは、米国農務省、FDA、および各州の保健局と協力して、HPAI A(H5N1)ウイルス

に感染した家畜に暴露された人々の監視を続けている。インフルエンザウイルスは常に変化するため、継続的なサーベイランスと準備の努力は極めて重要であり、CDCは公衆衛生のリスク評価が変化した場合に備えて対策を講じている。CDCは、公衆衛生のリスク評価が変更された場合に備え、対策を講じている。

令和6年4月2日  
動物衛生課国際衛生企画班

(仮訳)

**件名：米国農務省がニューメキシコ州の牛群における高病原性鳥インフルエンザを確定**

**USDA Confirms Highly Pathogenic Avian Influenza in Dairy Herd in New Mexico**

**掲載：米国農務省 (USDA)**

**日時：2024年4月1日付**

**URL：** <https://www.aphis.usda.gov/news/agency-announcements/usda-confirms-highly-pathogenic-avian-influenza-dairy-herd-new-mexico>

米国農務省 (USDA) 動植物検疫課 (APHIS) は、ニューメキシコ州の乳牛群およびテキサス州の5例の新たな乳牛群から高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が検出されたことを確定した。APHISは3月29日 (金)、アイオワ州エイムズにある国立獣医サービス研究所 (NVSL) が、ニューメキシコ州、テキサス州及びアイダホ州の牛群から推定陽性の検査結果を確認中であることを発表したが、今回の発表はその続報である。

ニューメキシコ州で牛のHPAIが確認されたのはこれが初めてであり、3月25日 (月) に最初に発表されたテキサス州での2例に追加された。現在までにUSDAは、テキサス州 (7例)、カンザス州 (1例)、ミシガン州 (1例) 及びニューメキシコ州 (1例) の乳牛群におけるHPAIの検出を確定している。アイダホの牛群の推定陽性検査結果は、NVSLでの分析待ちである。

APHISは引き続き、米国食品医薬品局 (FDA) 及び米国疾病予防管理センター (CDC) と並びに各州の獣医及び公衆衛生当局と緊密に連携し、泌乳量の減少や食欲低下、その他の臨床所見を引き起こす乳牛の病気に関する調査や診断活動に取り組んでいる。

米国農務省 (USDA) と連邦及び州の関係機関は、情報が入手可能になり次第、引き続き最新情報を共有する予定である。APHISはまた、よくある質問をまとめた文書もここに作成した。

さらに本日、CDCはテキサス州の1人がHPAI A (H5N1) ウイルスの陽性反応を示したと報告したとし、また、CDCはこの感染は、CDCが低いと見なしている米国の一般市民に対する鳥インフルエンザA (H5N1) のヒトへの健康リスク評価に変更を与えるものではないと発表した。しかしながら、感染した鳥や他の動物 (家畜を含む) に近接または長期間、無防備に暴露された人、あるいは感染した鳥や他の動物に汚染された環境に置かれた人は、感染のリスクが高くなる。CDCはHPAI A (H5N1) ウイルスの予防、モニタリング、公衆衛生調査に関する中間勧告を発表した。

連邦及び州当局は、HPAIあるいは他の関連性のない病気が症状の根底にあるのか否かを評価するため、病気の動物から採取したスワブ及び未殺菌の臨床所見の見られる乳検体における追加検査及びウイルスゲノムの塩基配列決定を引き続き実施している。

NVSLはまた、その後の州で確認されたウイルス株は、テキサス州とカンザス州の牛で最初に確認された、野鳥によって持ち込まれたと思われる株 (H5N1, Eurasian lineage goose/Guangdong clade 2.3.4.4b) と非常に類似していることを確認した。初期の検査では、ヒトへの感染性を高めるようなウイルスの変化は見つかっていない。感染動物と直接接触したヒトが感染する可能性はあるが、現在のところ一般市民へのリスクは低い。

市場に出回る前に製品は低温殺菌されているため、この状況が消費者の健康を脅かしたり、商業用乳供給の安全性に影響したりする懸念は引き続きない。酪農場は健康な家畜から搾乳された乳のみをヒトの消費用に加工することを義務付けられており、影響を受けた家畜から搾乳された乳は、ヒトの食品供給網に入らないよう、商業用乳用タンクから転用されるか、破棄されている。さらに、低温殺菌は乳中の細菌やインフルエンザなどのウイルスを不活性化することが証明され続けている。低温殺菌は、人間が消費するために州をまたぎ取引されるすべての乳に義務付けられている。FDAの長年の見解は、未殺菌の生乳には消費者に深刻な健康リスクをもたらす危険な微生物が潜んでいる可能性があるというものであり、FDAはHPAIの検出を踏まえて、生乳の摂取に伴うリスクを消費者に喚起している。

生乳におけるHPAIの感染について得られる情報は限られているため、FDAは、鳥インフルエンザに感染した牛や鳥インフルエンザに感染した牛に暴露された牛を含め、病気の症状が見られる牛の乳を使った生乳や生/無殺菌乳チーズ製品を製造・販売しないよう、業界に推奨している。現時点では、症状のある牛の生乳や乳製品が州をまたいだ商取引に出回っていることをFDAは承知していない。さらに、病気の症状を示している牛や鳥インフルエンザに感染した牛に曝露された牛から搾乳された牛乳を子牛やその他の動物に与える場合は、子牛に与える前に低温殺菌やその他の加熱処理を行い、インフルエンザなどの有害な細菌やウイルスを死滅させることをFDAは強く推奨している。生乳の販売と消費に関する情報を含むFDAの食品安全情報は、[こちら](#)から閲覧可能である。

現在までのところ、症状を起こした牛による生乳の損失は限定的で、供給量に大きな影響を与えることはなく、乳やその他の乳製品の価格にも影響はないはずである。さらに、米国では通常、季節的に乳生産量が増加するため、春季の乳供給量は十二分に確保されている。

連邦当局はまた、州や業界関係者と協力し、生産者や獣医師に牛の病気を迅速に報告するように促すことによって、新たな症例が発生する可能性を監視し、酪農家や農業従事者、消費者、他の動物への影響やリスクを最小限に抑えることができるようにしている。生産者は獣医師と協力し、牛の病気を迅速に報告し、強化されたバイオセキュリティ対策を実践するよう求められている。バイオセキュリティ対策の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

令和6年4月3日  
動物衛生課国際衛生企画班

(仮訳)

件名：米国農務省がアイダホ州の牛群における高病原性鳥インフルエンザを確定  
USDA Confirms Highly Pathogenic Avian Influenza in Dairy Herd in Idaho

掲載：米国農務省 (USDA)

日時：2024年4月2日付

URL：<https://www.aphis.usda.gov/news/agency-announcements/usda-confirms-highly-pathogenic-avian-influenza-dairy-herd-idaho>

米国農務省 (USDA) 動植物検疫課 (APHIS) は、アイダホ州の乳牛群から高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が検出されたことを確定した。APHISは3月29日 (金)、アイオワ州エイムズにある国立獣医サービス研究所 (NVSL) が、アイダホ州の牛群から推定陽性の検査結果を確認中であることを発表した。今回の発表はその続報である。

アイダホ州の牛でHPAIが確認されたのはこれが初めてである。現在までにUSDAは、テキサス州 (7例)、カンザス州 (2例)、ミシガン州 (1例) 及びニューメキシコ州 (1例) の乳牛群におけるHPAIの検出を確定している。

NVSLは現在、カンザス州、ニューメキシコ州、オハイオ州及びテキサス州からの推定陽性結果について確定検査を行っている。これらの検体は、すでにHPAIと診断された他の牛と少なくとも何らかの臨床症状が共通している牛から採取されたものであるが、NVSLの分析が完了するまではHPAIの存在が確定したと考えるべきでないことに注意することが重要である。

APHISは、家畜のHPAI検出に関する最近の発表やバイオセキュリティ情報などを掲載したホームページを作成した。今後、APHISは毎日午後4時 (東部標準時) (国営班注：日本時間午前5時) までに、確認された家畜のHPAI検出情報をこのホームページに掲載する。

APHISは引き続き、米国食品医薬品局 (FDA) 及び米国疾病予防管理センター (CDC) 並びに各州の獣医及び公衆衛生当局と緊密に連携し、泌乳量の減少や食欲低下、その他の臨床所見を引き起こす乳牛の病気を調査・診断している。

米国農務省 (USDA) と連邦及び州の関係機関は、情報が入り次第、引き続き最新情報を共有する予定である。APHISはまた、よくある質問をまとめた文書もここに作成し、同様に各州の動物衛生担当官、獣医師及び生産者に対する推奨事項をまとめた文書もここから閲覧可能である。

4月1日、CDCはテキサス州の1人がHPAI A (H5N1) ウイルスの陽性反応を示したと報告し、また、CDCはこの感染は、CDCが低いと見なしている米国の一般市民に対する鳥インフルエンザA (H5N1) のヒトへの健康リスク評価に変更を与えるものではないと発表した。しかしながら、感染した鳥や他の動物 (家畜を含む) に近接または長期間、

無防備に暴露された人、あるいは感染した鳥や他の動物に汚染された環境に置かれた人は、感染のリスクが高くなる。CDCはHPAI A (H5N1) ウイルスの予防、モニタリング、公衆衛生調査に関する中間勧告を発表した。

連邦及び州当局は、HPAIあるいはその他の関連性のない病気が症状の根底にあるのか否かを評価するため、病気の動物から採取したスワブ及び未殺菌の臨床所見の見られる乳検体における追加検査及びウイルスゲノムの塩基配列決定を引き続き実施している。

NVSLはまた、その後の州で確認されたウイルス株は、テキサス州とカンザス州の牛で最初に確認された、野鳥によって持ち込まれたと思われる株 (H5N1, Eurasian lineage goose/Guangdong clade 2.3.4.4b) と非常に類似していることを確認した。初期の検査では、ヒトへの感染性を高めるようなウイルスの変化は見つかっていない。感染動物と直接接触したヒトが感染する可能性はあるが、このことは現在のところ一般市民へのリスクは低いままであることを示している。

市場に出回る前に製品は低温殺菌されているため、この状況が消費者の健康を脅かしたり、商業用乳供給の安全性に影響したりする懸念は引き続きない。酪農場は健康な家畜から搾乳された乳のみをヒトの消費用に加工することを義務付けられており、影響を受けた家畜から搾乳された乳は、ヒトの食品供給網に入らないよう、商業用乳用タンクから転用されるか、破棄されている。さらに、低温殺菌は乳中の細菌やインフルエンザなどのウイルスを不活性化することが証明され続けている。低温殺菌は、人間が消費するために州をまたぎ取引されるすべての乳に義務付けられている。FDAの長年の見解は、未殺菌の生乳には消費者に深刻な健康リスクをもたらす危険な微生物が潜んでいる可能性があるというものであり、FDAはHPAIの検出を踏まえて、生乳の摂取に伴うリスクを消費者に喚起している。

生乳におけるHPAIの感染について得られる情報は限られているため、FDAは、鳥インフルエンザに感染した牛や鳥インフルエンザに感染した牛に暴露された牛を含め、病気の症状が見られる牛の乳を使った生乳や生/無殺菌乳チーズ製品を製造・販売しないよう、業界に推奨している。FDAが言う暴露とは、一般的にH5N1が疑われる、または確認された牛がいる敷地内にいる牛を指している。敷地の大きさは様々であり、州の要件がある可能性があるため、FDAは生産者に、さらなるガイダンスを得るために州の規制当局や獣医師に相談することを勧めている。現時点では、症状のある牛の生乳や乳製品が州をまたいだ商取引に出回っていることをFDAは承知していない。さらに、病気の症状を示している牛や鳥インフルエンザに感染した牛に曝露された牛から搾乳された牛乳を子牛やその他の動物に与える場合は、子牛に与える前に低温殺菌やその他の加熱処理を行い、インフルエンザなどの有害な細菌やウイルスを死滅させることをFDAは強く推奨している。FDAは、HPAI発生時の牛乳の安全性に関する質問と回答をまとめた文書を掲載した。生乳の販売と消費に関する情報を含む、FDAの食品安全情報は、こちらから閲覧可能である。

現在までのところ、症状を起こした牛による生乳の損失は限定的で、供給量に大きな影響を与えることはなく、乳やその他の乳製品の価格にも影響はないはずである。さらに、米国では通常、季節的に乳生産量が増加するため、春季の乳供給量は十二分に確保されている。

連邦当局はまた、州や業界関係者と協力し、生産者や獣医師に牛の病気を迅速に報告するように促すことによって、新たな症例が発生する可能性を監視し、酪農家や農業従事者、消費者、他の動物への影響やリスクを最小限に抑えることができるようにしている。生産者は獣医師と協力し、牛の病気を迅速に報告し、強化されたバイオセキュリティ対策を実践するよう求められている。バイオセキュリティ対策の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



(仮訳)

## 乳牛群における高病原性鳥インフルエンザの検出:よくある質問 (FAQ)

(<https://www.aphis.usda.gov/sites/default/files/hpai-dairy-faqs.pdf>)

3月29日(金)現在、米国農務省動植物検疫課(APHIS)は、テキサス州、カンザス州及びミシガン州の乳牛群から高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が検出されたことを確認しました。HPAI 検出に関する APHIS の最新情報は、この[プレスリリース](#)でご覧いただけます。

APHIS は、ニューメキシコ州、テキサス州、アイダホ州の他の牛群など、同様の病気の兆候を示す牛群との関連についても、その可能性を調査しています。これの対応は速やかに推進させている状況であり、USDA 及び州及び連邦のパートナーは、情報入手でき次第、最新情報を共有することを約束します。ここでは、牛群での HPAI 検出に関して最もよく寄せられる質問のいくつかに回答します。

### これらの牛はどのようにして HPAI に感染したのでしょうか？

野生の渡り鳥が感染源であると考えられています。しかし、ミシガン州の牛群における病気の広がり、牛間での HPAI 感染の可能性も排除できないことを示しています。

初期の検査では、ウイルスが人間に感染しやすくなるような変化は見られませんでした。感染した動物と直接接触したヒトの感染はあり得えますが、これは公衆に対する現在のリスクが依然として低いことを示しています。

### これはここ数か月に野生や商業用家きんの間で流行している株と同じ株ですか、それとも別の株ですか？

これまでの検査では、乳牛から検出された HPAI は H5N1 亜型で、ユーラシア系統のガチョウ/広東省クレード 2.3.4.4b であることが示されています。これは、野鳥や商業用家きん群に感染し、また一部の野生動物で検出されているのと同じ株とクレードです。

### 牛の HPAI の症例は USDA によってどのように確認されていますか？

USDA は、生産者が獣医師と協力して、病気の牛の症例を州の動物衛生当局と APHIS 獣医局エリア担当の獣医師に報告することを奨励しています。獣医師は、初期検査のために国立動物衛生研究所ネットワーク (NAHLN) の研究所にサンプルを提出する必要があります。検査結果が陰性でないサンプルは、アイオワ州エイムズにある国立獣医サービス研究所 (NVSL) に提出され、確認検査が行われます。USDA は NVSL による検査の陽性検査結果をもって確認とみなし、NVSL は必要に応じてウイルスゲノムシーケンスを実施します。

### 牛から採取したサンプルにはどのような種類がありますか？

USDA と NAHLN のパートナー研究所は、病気の牛から採取された低温殺菌されていない臨床所見の見られる乳、スワブ及び組織検体を検査しました。

### 泌乳の低下など、同様の症状を示している他の牛も HPAI に感染していると考えられるべきでしょうか？

生産者には、獣医師と協力して、牛群が現在の牛の病気の臨床的兆候を示しているかどうかの検査を追求することをお勧めします。連邦及び州当局は、病気の動物からの検体の検査とウイルス

## 米国農務省動植物検疫課 (USDA APHIS)

ゲノムシーケンスを実施し、HPAI または他の無関係な疾病が臨床像の一部である可能性があるかどうかを評価します。

### **ミネソタ州の新生山羊から HPAI が最近検出されたことと合わせて、HPAI がこれまで考えられていたよりも一般的にほ乳類に広がるのではないかと懸念する理由はありますか？**

HPAI は、米国で野鳥、家きんの群れ、数種の野生ほ乳類、及び新生ヤギで発見されてきました。完全なリストは[ここ](#)にあります。多くの種がインフルエンザウイルスに感受性があり、これには野鳥と直接接触することが多い野生動物も含まれます。これらの動物の多くは、HPAI に感染した鳥類を摂食したり、接触したりした後に感染した可能性が高いです。ミネソタ州の新生ヤギの場合、共有の牧草地と唯一の水源を通じて、HPAI に感染した家きん(あひると鶏)にばく露されました。しかし、最近の検査では、牛間で HPAI 感染が生じている可能性が否定できないことが示されています。

### **USDA が牛の移動に注意を勧めているのはなぜですか？また、移動制限の義務化は検討されていますか？**

ミシガン州の群内での HPAI の広がり、牛から牛への広がりを排除できないことを示しています。その結果、私たちは、生産者や獣医師に乳牛の移動を最小限に抑えるよう奨励しています。現時点では、移動を最小限に抑え、適切なバイオセキュリティ慣行を遵守し、必要な移動の前に動物を検査することで、病気の拡大を十分に抑制し、規制上の制限や検疫の必要性を回避することを期待しています。HPAI が致死性である家きん群と異なり、群れが症状を示している酪農場では、罹患した家畜は回復し、関連する死亡はほとんど又はまったく報告されていません。

### **この牛の病気は、国全体の牛乳生産にどのような影響を与えていますか？消費者物価にどのような影響があるのでしょうか？**

現時点では、牛乳の供給や消費者物価への影響を認識していません。現時点で入手可能な情報に基づくと、これが消費者向けの牛乳やその他の乳製品の入手可能性や価格に影響を与えるとは予想していません。さらに、米国では、季節的に生産量が多いため、通常、春には十分な量の牛乳が供給されます。市場は引き続き通常の動きを反映しています。先週の余剰牛乳は市場価格を大幅に下回って販売されており、供給が非常に長期にわたることを示しています。

### **HPAI の検出とウイルス緩和の最新の傾向は？**

家きんにおける HPAI の最近の検出は鈍化している。2024 年のこれまでのところ、商業用家きん施設での HPAI の検出件数は 21 件で、2023 年 1 月-3 月の件数(17 件)と同程度です。兩年とも、2022 年 (1 月-3 月に 59 件) と比較して検出件数が大幅に減少しており、バイオセキュリティの実践とウイルス管理が商業家きん群への影響を軽減する上で重要な役割を果たしていることを示しています。

### **テキサスの農場で発見された死亡野鳥の種類は何ですか？**

現時点では、これらの症例においてハト、クロウタドリ、クロムクドリモドキの 3 種が確認されています。

### **家きん群での HPAI 検出の場合のように、HPAI 検出は牛群の殺処分を要することになりますか？**

現段階では、乳牛群の殺処分の必要性は想定していません。一般的に致死性である鳥類の HPAI とは異なり、死亡はほとんど報告されておらず、動物は回復していると報告されています。酪農場で感染した牛は、現在、他の動物から隔離されています。私たちはこの状況についてさらに学び続けています。乳製品生産者との透明性と協力は、業界へのより広範な潜在的な影響を軽減す

るためにより重要になるでしょう。

#### これは肉用牛や牛肉の供給に影響を与えましたか？

USDA は、食肉の供給が安全であると確信しています。いつものように、生肉を適切に取扱い、安全な内部温度まで調理することを消費者に奨励しています。安全な内部温度まで調理すると、肉の細菌やインフルエンザなどのウイルスが死滅します。

#### 農家はどのようにして HPAI の家畜への感染拡大を防ぐことができますか？

農業従事者が適切なバイオセキュリティ対策を実践することは非常に重要です。また、懸念のある生産者には、獣医師、州動物衛生局、及び/又は管轄のエリア獣医師に連絡することを奨励しています。

動物が病気の兆候を示している場合、または HPAI の検査で陽性となった場合は、その動物を農場内の他の動物から隔離し、HPAI が他の種に広がらないようにするためのバイオセキュリティ対策を強化する必要があります。さらに、農家は、いつでも複数の種類の動物を一緒に飼育することを避けることをお勧めします。

バイオセキュリティの実践に関するより具体的な情報は以下を参照ください。

- 乳牛群に特有
- 家きん群に特有
- 一般的なインフルエンザのバイオセキュリティ

#### 酪農家は家畜の群れにどのような病気の兆候に注意する必要がありますか？

生産者は、次の臨床徴候を呈する動物を直ちに州の獣医師に報告する必要があります：群単位での乳生産量の減少、より濃厚・濃縮・初乳様の乳を呈している深刻な影響を受けた牛での急激で突発的な生産量の減少、ルーメンの運動性の低下を伴う飼料消費量の減少、異常な粘液便又は軟便、嗜眠、脱水及び発熱。

初期の症例では、泌乳期中期の高齢牛が若い牛や新たな泌乳牛や未経産牛よりも深刻な影響を受ける可能性が高いことが示されました。追加データは、より若い牛が影響を受けていることを示しています。影響を受けた生産者からのより多くのデータと報告は、感染動物の範囲を明らかにすることに役立ちます。

#### 牛乳の回収はありますか？

現時点で入手可能な情報・調査に基づくと、牛乳の回収は必要ありません。製品は市場に入る前に低温殺菌されるため、商業用の牛乳供給の安全性や、この状況が消費者の健康にリスクをもたらすという懸念はありません。低温殺菌は牛乳中の細菌やインフルエンザなどのウイルスを不活化することが継続的に証明されています。

#### これらの州からの生乳の消費は人の健康に影響を与える可能性がありますか？

FDA の長年の立場は、未殺菌の生乳には消費者に深刻な健康リスクをもたらす可能性のある危険な微生物が潜んでいる可能性があるというものであり、FDA は HPAI の検出を受け、生乳の消費に関連するリスクを消費者に喚起しています。生乳の販売と消費に関する情報を含む FDA からの食品安全情報は、ここから閲覧できます。